

# IFRSの普及とグローバリズム

## A Dissemination of IFRSs and Globalism

平 賀 正 剛

Masataka HIRAGA

### 和文要旨：

グローバリゼーションは、技術革新によって生じた必然的な現象としてだけでは片付けられない。各界のパワーエリートにより新自由主義的なイデオロギー（グローバリズム）が喧伝された結果、人々がそれを“人類の然るべき帰結”と受け止め、自らグローバリゼーションに邁進するという側面がある。本稿ではIFRSの世界的普及を会計のグローバリゼーションと捉え、そこにも一般のグローバリゼーションと同様のイデオロギー的側面があると考え。国際会計基準審議会（IASB）の理事によるメディアを通じた発言・コメントに国際財務報告基準（IFRS）の普及を助長するイデオロギー的メッセージが内包されていることを、彼らのコメントを含んだドキュメントの分析を通じて明らかにする。

### 英文要旨：

Globalization is not only the phenomenon caused by technological innovations, but also has the ideological aspect. It is arguably encouraged by the neoliberal ideology implied in the social elites' comments propagated through mass media that people accept globalization as 'a natural progress of human being' and accelerate it upon their own initiative. The worldwide adoption of IFRS is the globalization of financial reporting, which has the similar ideological aspect as the general globalization. This study analyses the documents including comments issued by International Accounting Standards Board (IASB) members, which unveils the ideological (neoliberal) messages in those comments to foment the dissemination of IFRS.

和文キーワード：グローバリゼーション、国際会計基準審議会（IASB）、グローバリズム、新自由主義

英文キーワード：Globalization, IASB, Globalism, Neoliberalism

### 目 次

1. はじめに
2. イデオロギーの普及としてのグローバリゼーション
3. 分析対象・分析方法
4. ドキュメントの整理一示された論理構造
  - 4-1. 図Ⅰ：グローバル化する市場経済におけるIASBの役割
  - 4-2. 図Ⅱ：IFRSおよびIASBが備えるべき諸要件
  - 4-3. 図Ⅲ：IASBの基準設定における協働体制の確立
  - 4-4. 図Ⅳ：IFRS採用・適用・解釈とその具体的便益
  - 4-5. 図Ⅴ：EUにおけるIFRS採用
5. 論理構造に関する分析

- 5-1. 言説1について
- 5-2. 言説2および3について
- 5-3. 言説4について
- 5-4. 言説5について
- 5-5. 理事による個別の発言内容
- 6. むすび

## 1. はじめに

2014年11月10日、当時の国際会計基準審議会（International Accounting Standards Board: IASB）の副議長（vice-chairman）Ian Mackintosh氏はロンドンで行ったスピーチにおいて次のように述べた。

「会計は、今まさに世界初のグローバルな専門職になろうとしているが、これはIFRSによる所が大きい。これはわずか10年あまりでの驚くべき進歩である。我々は大変誇りに思うべきだ」（Mackintosh[2014d], p.1）

この発言は次のように敷衍できよう。すなわち、国際財務報告基準（International Financial Reporting Standards: IFRS）という世界共通基準が完成・普及したおかげで、世界中の職業会計人が同一基準に従い会計業務を行うようになった。このような専門職は会計が史上初である。

同氏によれば、高品質なグローバル基準が設定可能となる要件は、それが専門家から構成される独立したプライベート・セクターによって行われることにある。パブリックな国際組織では、参加者が各国の立場を代表しなければならないがゆえに、そこでの合意事項は最大公約数にのみとどまってしまう、その適用についても各法域に裁量が委ねられてしまうという（Mackintosh[2014a], p.5）。

この説明についても、次のように敷衍できよう。IASBは民間組織であるためにそれ自身は強制力を有していない。グローバル基準の設定主体としての正統性は専門性と独立性に由来している。より具体的に言えば、その専門性と独立性とは、会計の専門家が普遍的な理論に基づき（つまり科学的に）基準設定を行っていることによって担保されている。それゆえに、世界中で受け入れられる基準を作ることが可能である。

民間機関による国際ルール形成に関する近年

の著名な研究であるBüthe and Mattli[2011]は、民間のルール形成機関がしばしばMackintosh氏と同様の主張をすることを認めた上で、その“純理論性”を疑問視している。また同著では、IASBを事例として取り上げることにより、国際基準開発過程が各国の利害の絡む政治的性質をもったものであることを明らかにしている。

たしかに国際的なルール設定は政治的様相を持つものであり、Mackintosh氏の主張するような“純粋さ”を額面通りに受け止めることはできない。ましてや会計は社会科学である。その理論は自然科学における理論の如き絶対的普遍性を持ち合わせてはいない。その理論は社会一般からの合意や承認によって形成されるが、それには相当の時間が必要となろう。だからこそ、①短期間において単一のグローバル基準が完成し、かつ②それがグローバルに普及したとすれば、それは、確かにMackintosh氏が「誇り」とまで言うように、極めて希なケースであろう。

そのようなレア・ケースが成立した理由として、特に前半の①について考えられるのは、1つにはMackintosh氏の主張通り、IASBが基準設定に関して同一の理論を共有するボード・メンバー（以下、理事）で構成されているということである。では、彼らの共有する理論とはどのようなものであろうか。Burlaud and Colosse[2011]は、IASBの理事の大部分がアングロ=サクソンの会計文化を持ち、新古典派経済学の教育を受けた者たちであり、彼らが共有する考えから基準が導出されている可能性に言及している（Burlaud and Colosse[2011], p.29）。またPower[2010]は、新古典派経済学や金融経済学を研究のベースとした会計学者が基準設定に関与することで、公正価値測定など今日の会計基準に見られる特徴が正統化されていることを論じている（Power[2010], pp.201-

203)。

これらの指摘を基に考えれば、理事の間で共有されているのは、会計や財務報告に関する特定の理論というよりも、もっと基礎的な経済理論、さらにはそれを支える前提や理念・信念ということになる。とすれば、特定の理念・信念に基づいた基準の設定・普及に努めているという意味で、IASBはある種の政治的な性格をも帯びた組織ということになる。

## 2. イデオロギーの普及としてのグローバリゼーション

一方、後段②の理由として考えられるのは、理事間で共有されている基準設定を支える理念が世界中の人々にも受け入れられたということである。Mackintosh氏の述べる所は“会計・財務報告のグローバリゼーション”とでも表現できる現象であるが、グローバリゼーションには、“イデオロギーの普及”によってそれが進むという側面がある。この点について、Steger [2013]は次のように論じている。

「自分たちの好む規範や価値観を社会に浸透させようと、イデオロギーの編纂者（社会的エリートである場合が多い）は、何を議論し、主張し、質すべきなのかについて限定的なアジェンダを一般大衆に示す。（中略）すべての社会的過程と同じように、グローバリゼーションは、グローバリゼーションという現象そのものに関する一連の規範、主張、信条、説話で満たされたイデオロギーの次元で発現する」（Steger [2013], p.103）

Steger [2013]の議論は次のように敷衍されよう。すなわち社会的に影響力をもつ人々が、特定の理念体系（イデオロギー）を、各種メディアを通じて公表することにより、世界中の一般大衆がそのイデオロギーに合致した行動を採るよう方向づける。その結果、世界中で人々の考えや行動が収斂していく。この過程がグローバリゼーションの一面となっている。このグローバリゼーションに関するイデオロギーを、Steger [2013]は「グローバリズム」（Steger [2013], p.104）と呼ぶ。

さらにSteger [2013]は、グローバリズムには競合する3つの種類があり、中でも「市場派

グローバリズム（Market globalism）」がもっとも支配的で強い影響力を持つことを指摘する（Steger [2013], p.106）。市場派グローバリズムとは「グローバリゼーションに自由市場の規範と新自由主義的な意味合いを賦与する」（Steger [2013], p.104）ものと定義され、その言説は次の5点に要約されるという。

1. グローバリゼーションとは市場の自由化とグローバルな統合を本質とする。
  2. グローバリゼーションは不可避で非可逆的である。
  3. グローバリゼーションは誰のせいでもない。
  4. グローバリゼーションはすべての人に利益をもたらす。
  5. グローバリゼーションは世界に民主主義をいっそう広める。
- （Steger [2013], p.108）

市場派グローバリズムの提唱者は「企業経営者、大多国籍企業の重役、企業ロビイスト、影響力を持つジャーナリスト、広報の専門家、一般大衆向けの知的著述家、有名人や芸能人、国家官僚や政治家」などであり、上記の言説が世界的に売買されている著名な雑誌、新聞、電子メディアを通じて世界中の人々に拡散されている（Steger [2013], pp.106-107）。さらにSteger [2013]によれば、市場派グローバリズムは「“現実”として何が重要かをあらかじめ決めてしまっており、それゆえその通りに世界を形成できる強力な社会勢力を味方につけている」ために、市場派グローバリズムの言説はその言説通りのもの（事）を実際に作り出すことができる（Steger [2013], p.107）。つまり、市場派グローバリズムの説話は、言霊が宿っているかの如く現実化するという。

Steger [2013]のいう「強力な社会的勢力」とは、アメリカやイギリスなどの先進国政府、または世界銀行や国際通貨基金（international Monetary Fund: IMF）、経済開発協力機構（Organization for Economic Co-operation and Development: OECD）といった国際機構のことであろうと推察される。80年代、新自由主義はサッチャリズムあるいはレーガノミクスとして英米両国で台頭したことは誰もが知る所で

ある。90年代以降には、世界銀行やIMFは、経済危機からの復興のための処方箋として、あるいは外資誘致に有利な経済環境整備のための青写真として、新自由主義的な政策を世界各国に普及させてきた(Harvey[2005], pp.92-93; 邦訳[2007], pp.130-132)。Steger[2013]の「新自由主義的な政策が策定されるほど、市場派グローバリズムの主張が大衆の心にいっそう強固に植え付けられる」(Steger[2013], p.107)という記述は、先進国政府や国際機関による新自由主義的政策の実施と、それに対する社会的エリート層からの支持が相まった形で、新自由主義化がグローバルに展開したことを指していると考えられる<sup>1</sup>。

IFRSに関しては、世界銀行やIMFが新自由主義に基づく経済開発プログラムを進める中で、各国に国際的な会計・監査の基準(=IFRS)を満たした制度整備や実務を要求してきた経緯がある(平賀[2009], p.33, 38)。IFRSによってもたらされる財務情報が、資本市場の非対称性を解消し、効率的市場を実現するという前提がそこにはある。換言すれば、新自由主義的政策の下、グローバルな財務報告基準として推奨されたことにより、IFRSの正統性が育まれてきた(Irvine[2008], p.132)。

一方で、IFRSの存在が逆に新自由主義の理論的正統性を支えているという側面も指摘される。IFRSが測定の基礎とする公正価値は効率的市場において成立する価格に基づいている。見方を変えれば、IFRSが適用され、公正価値測定が実施されていることは、現実の市場が効率的市場であることを意味することになる。ゆ

えに公正価値測定を求める財務報告基準の存在とそれが適用されているという事実は、当該国の市場の効率性を正統化する(Zhang et. al [2012], p.1281)<sup>2</sup>。このことは、効率的市場を前提とする新自由主義の理論にも正統性を与えることになる。公正価値測定を含む基準であるIFRSと新自由主義の間には、その正統性を相互に補完し合う関係を見出せる<sup>3</sup>。

新自由主義的な経済政策をとる国においても市場の失敗が生じてきたことは周知の通りである。また新自由主義が是とする経済環境を実現するためには(本来新自由主義においてはもっとも不要とされるはずの)国家の介入・干渉なしには成立しえない(Harvey[2005], p.72; 邦訳[2007], p.103; Steger[2013], p.109)という批判もある。だが、IFRSを通じてもたらされる正統性により、こうした矛盾の指摘や批判に対抗することが可能となる。

以上を考慮した上で、冒頭のMackintosh氏の発言に立ち返って考えてみたい。同氏が語る短期間でのIFRSの完成およびその世界的普及は、新自由主義的イデオロギーの普及と連動しているのではないだろうか。すなわち、理事の間では市場派グローバリズムの理念が共有されている。彼らのメディアを通じた発言や著述は市場派グローバリズムの言説の一部として、さらにはIFRSこそグローバルに統合した市場の下で用いられるべき単一のグローバル基準であるというメッセージとして世に伝わる。このことが世界中の人々(特に会計に携わる人々)にその理念とIFRSの正統性を浸透させ、短期間でのIFRSの普及につながったと考えられるの

1 Harvey[2005]も、様々な国における新自由主義的な経済再編を「しばしば「グローバリゼーション」という用語で概括される」(Harvey[2005], pp.1-2; 邦訳[2007], p.010)と述べ、世界的な新自由主義化がグローバリゼーションの一面であることを認めている。また新自由主義化としてのグローバリゼーションが進んだ要因の一つとして「マネタリズムと新自由主義という新たな経済的正統理論の世界的普及がますます強力なイデオロギー的影響を及ぼしたこと」(Harvey[2005], p.93; 邦訳[2007], p.133)をあげ、イデオロギーの発露としてのグローバリゼーションの側面に言及している。

2 Zhang et. al[2012]によれば、中国において新自由主義に依拠した経済改革が行われ、IFRS、すなわち公正価値(効率的市場で形成される価額)を測定の基礎とする基準、をベースとした国内基準が確立されたにも関わらず、その証券市場は効率的市場とは程遠いものであることを指摘する。その上で、そうした会計基準の存在が果たす役割は、当該国の証券市場が効率的市場であるという外観を支えるという形式的なものであると結論付けている。

3 Zhang et al.[2010]、Power[2010]、Zhang[2011]、Palea[2015]、Chiapello[2016]など、IFRSと新自由主義の親和性を論証する研究は少なくない。

ではないだろうか。

同様の仮説は Mantzari et. al[2016]においても取り上げられている。Mantzari et. al[2016]は、調査の舞台となったギリシャ国内の社会的エリートの言説に焦点を当てているが<sup>4</sup>、本稿では IASB の理事の発言に注目する。Steger[2013]や Harvey[2005]が指摘するように、新自由主義的なイデオロギーの普及がグローバリゼーションを促進させているという前提の下、IASB 理事の発言にイデオロギー的示唆があるのかどうか、検討する。これが本稿の目的である。そこに市場派グローバリズム的な主張が確認できれば、上記の仮説は支持されることになるのではないだろうか。

### 3. 分析方法と分析対象

IASB の理事の発言を考察するにあたっては 2つの方法を検討した。1つは Steger[2013]においても見られるような、特定の個人の発言に注目する方法である。具体的には、理事の発言の含まれたインタビュー記事、講演録、エッセイ（以下ドキュメント）を、そのテーマに関わらずレビューし、その中で上記の5つの言説に該当すると思われる部分を切り取り、紹介していく方法である。この方法に拠った場合に重要となるのは、その発言がどのような文脈でなされたかを明確にした上で当該発言を紹介することである。だが、各発言について前後の文脈を逐一検討することは、本稿の内容をいたずらに冗長ならしめることになる。また、テーマを限定せず、すべてのドキュメントを対象とする点で、本研究の目的との関連性が希薄となる可能性もある。

もう1つは、本稿の目的と関連性を持った過去の発言のみを集め、それらについてドキュメント分析を行う方法である。具体的には、IASB の任務である「IFRS 設定」に関するドキュメントを収集し、そこで展開されている基準設定に関する論理を整理し、上記5つの新自

由主義的言説に通じる考えがそこに含まれているかどうか、検討するという作業を行う。この方法によれば、先に示した方法の抱える問題点を解消することができるように思われる。よって本稿では後者の方法を採用する。

ただ、実際に分析を始めるにあたり、データ（ドキュメント）収集に係る課題が生じ、分析方法を若干工夫しなければならなかった。その課題とは、メンバーによってメディアへの露出に差があり、分析に足る十分なデータ（発言）を集めることが難しいメンバーがいることである。そのため、本研究では理事ごとにドキュメント分析を行うのではなく、すべてのドキュメントを IASB から発せられたコメントとして総体的に捉えた上で分析し、IASB としての「基準設定のロジック」を再構成するという方法を採用した。

データ収集に関してはもう一つ課題があった。分析対象とする理事の範囲の決定である。2001年の発足以来今日（平成30年9月現在）まで、IASB の理事を務めた人物は 39名にのぼる。今回の分析では、現議長である Hans Hoogervorst 氏の就任以降、本研究開始時点（平成29年4月）までに理事を務めた人物 18名を対象を絞った。2000年代と2010年代では IFRS を取り巻く国際的な状況や IASB の基準設定に係る機構に変化が見られる<sup>5</sup>。これらを加味し、2010年代の動向に分析の焦点を絞るという意味で、Hoogervorst 体制の理事のみを分析対象とした。また、この決定には研究完成に要する時間も関係している。ドキュメント分析には少なからぬ時間を要する。歴代理事全員の発言の分析は、本研究の発表時点での“鮮度”を損なう可能性がある。今回分析対象としたドキュメントは本稿末に一覧表示している。

また、ドキュメントは英語によって公表されたものに限定した。理事の発言により、ある種

4 Mantzari et. al[2016]は、ギリシャ国内の関係者を対象に行ったインタビュー調査の結果をもとに、本稿の仮説とほぼ同様の状況が同国内に生じていることを明らかにしている。

5 たとえば前者については、ノーワーク合意の下での IASB と財務会計基準審議会（Financial Accounting Standards Board: FASB）との協働の度合いなどがあげられる。後者としては、会計基準アドバイザー・フォーラム（Accounting Standards Advisory Forum: ASAF）の発足などがその一例となろう。

の“グローバルな世論”が形成されているというのが本稿の仮説の一部である。そこで、英語以外のメッセージはグローバルな影響力を持ち難いと判断し、今回の分析対象からは除外することとした。

ただ、英語のドキュメントに限定することは、理事の間のデータ件数の差をさらに広げてしまうという問題点を持つ。事実、英語圏でない国出身の理事による英語のドキュメントは相対的に少ない。そこで、この欠点を少しでも解消するため、収集できるデータの少ない理事については、語られているテーマの如何に関わらず分析対象に含めることとした。

分析対象のドキュメントについては、各理事の氏名と「IFRS」および「IASB」をキーワードとし、EBSCOhost、Google Scholar および Google という3つのデータベースと検索エンジンを通じ、その検索・収集を行った。ただし本研究のテーマとの関係から、過度にテクニカルな、特定の会計問題についてのみ論じられているドキュメントは対象から外し、IASBの基準設定全般や会計のグローバル化などに話題が及ぶものだけを取り上げることとした。

ドキュメント分析の手法としてはKJ法を用いている。KJ法とは、日本の文化人類学者である川喜田二郎氏によって1967年に公表された、不定形データを整理・分析する手法である。具体的には、収集したドキュメントのうち重要な部分を1枚のカードに書き出し、その内容を適切に表すような1行見出しを付ける（データの切片化）。次に内容が同じであると思われるカードを集め、小・中・大のグループを編成していく。グループ編成が終わったら、グループ間の因果関係が分かるようカードの束を配置し、そのロジックを図として可視化していく（図解化）。図解化されたロジックは次章において文章として説明している（文章化）<sup>6</sup>。また今回KJ法を用いたドキュメント分析作業（データの切片化、その並び替えと図解化）を行うにあたっては、フリーソフトであるIdeaFragment2を利用した。

6 なおKJ法の詳細については川喜田[1967]および川喜田[1986]を参照されたい。

#### 4. ドキュメントの整理—示された論理構造

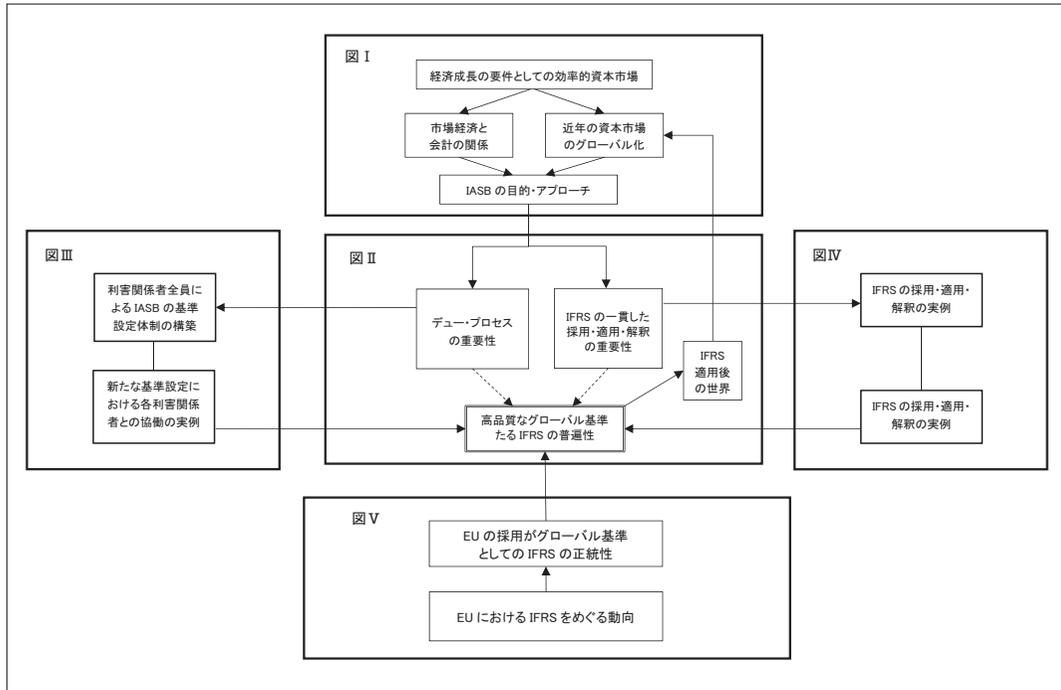
今回の分析対象であるドキュメントをKJ法によって整理した結果、IASBの理事が言及していた内容は、大きく以下の5つの領域に分類することができた。それを図解化したものが図IからVである。それぞれの内容を端的に示せば次の通りである。

- 図I：グローバル化する市場経済におけるIASBの役割
- 図II：IASBおよびIFRSが備えるべき諸要件
- 図III：IASBの基準設定における協働体制
- 図IV：IFRS採用・適用・解釈とその具体的便益
- 図V：欧州連合（European Union: EU）におけるIFRS採用

5つの論点は相互に関連している。図IからIIに続く話の流れが主流を成し、図III、IVおよびVが傍流として主流のロジックを支えるという形で全体が構成されている。またその全体構造は、図Iにおいておよその出発点になる「近年の市場経済の発展・変容」が、図IIIからVにおいて披露される様々な逸話を論拠とした上で結論付けられる「IFRSの普遍性」によってさらに促進されるという、壮大な循環論となっている点にその特徴がある。図IからVの関係は「全体構成図」に示すとおりである。以下、各図における論理展開を説明していく。

##### 4-1. 図I：グローバル化する市場経済におけるIASBの役割

多くのコメントにおいて、グローバル基準としてのIFRSについて論じる前に言及されるのが、今日の資本市場についてである。その内容は「市場経済と会計との関係」に関する一般論と「近年の資本市場のグローバル化」に関する具体論とに大別される。前者については市場の効率性を支えるインフラとしての会計の役割（Hoogervorst[2012b], pp.1-2; Ochi[2014]: Smith[2009], p.1; Zhang[1997], p.59）、あるいは効率的な資本市場を実現する要件として高品質な財務情報または財務報告基準が必要であること（Hoogervorst[2012b], p.2; [2014b], p.1;



全体構成図

[2016], p.2: Kalavacherla[2011], p.1: Ochi [2014]: Toker[1997]: [2000]: Zhang[1997], p.2) が論じられている。後者については、①欧州やアジアにおいて直接金融が資金調達方法の中心になりつつあること (Hoogervorst [2012a], p.1; [2012b], p.1: Mackintosh [2014e], p.1)、②多くの国において規制緩和・自由化が進みつつあること (Anonymous [2015]: Hoogervorst[2012c], p.18: Mackintosh [2010], pp.24-25; [2014a], p.1: Scott[2015a])、③世界の資本市場の相互連結が進展しつつあること (Hoogervorst[2012b], p.2; [2014b], p.1; [2012a], p.9; [2012c], p.16: Mackintosh [2014a], p.1 and 7; [2014c], pp.1-2: Toker [1997]) が指摘されている。

こうした指摘の前提となっているのは、「経済成長の要件としての効率的市場」、すなわち、経済発展のためには市場(とりわけ資本市場)の成熟が不可欠であるという考えであろう<sup>7</sup>。換

7 この点にまで言及しているコメントは数少ないが、議長の Hoogervorst が新興経済国におけるスピーチにおいてこの旨明言している (Hoogervorst [2012a], p.9; [2016], p.1)。

言すれば、一国の経済の成功裏な発展は、効率的市場の確立の成否にかかっているという信念が、IASB 理事に共通の基盤を形成していると考えてよいだろう。そこには、効率的市場実現のために情報の非対称性の解消が不可欠の課題であり、その手段こそが会計(または財務報告)であるという認識も含まれることとなる。

事実、多くのコメントにおいて財務報告の第一義的な目的は投資意思決定有用性にあり (Cooper[2007a], p.3: Finnegan[2012b], p.2: Kabureck[2016a]; [2016b]: Mackintosh [2014e], p.1: Smith[2009], pp.1-2: Toker [1997]; [2015], p.2)、その目的を達成する手段は高品質な財務報告基準が生み出す適正な財務情報である (Toker[1997]) という主張が見られる。こうした財務報告の目的に関する一般論は、前述の「市場経済と会計との関係」を論拠として導出されていると考えてよい。

一方で「近年の資本市場のグローバル化」を象徴する様々な逸話に関連して述べられるのが、会計の国際的多様性とそこから生じる弊害(財務諸表の比較可能性の低下や投資意思決定への影響など)である (Fisher[2016]: Hoogervorst[2012b], p.3: Mackintosh[2014a], p.2: Toker[1997];

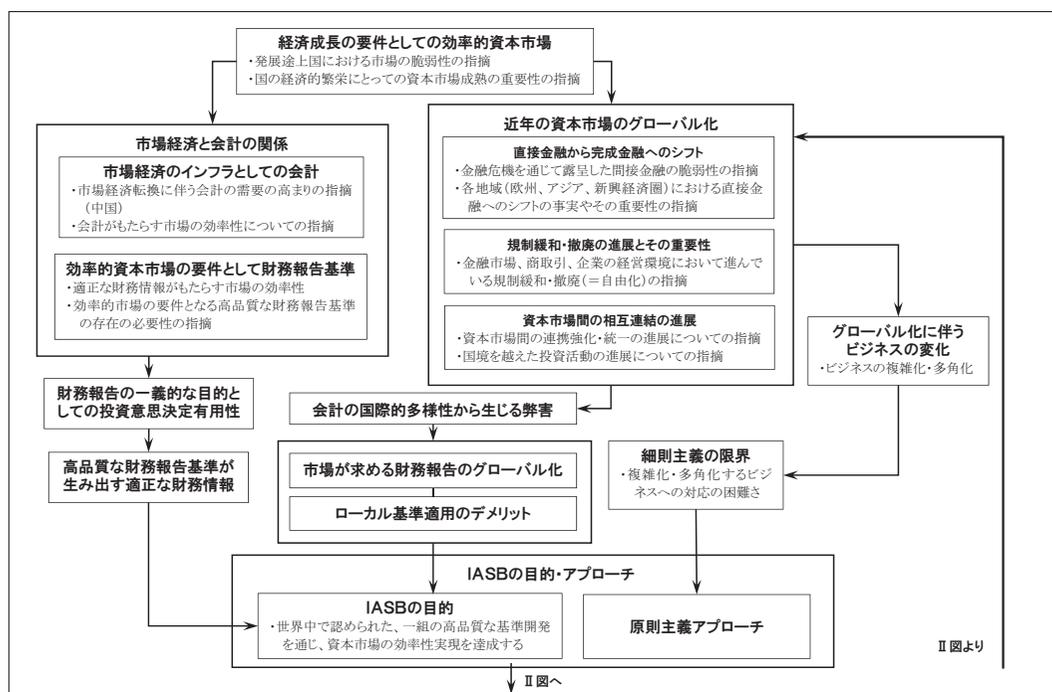
[2005], p.48, 55)。多くのコメントにおいて述べられているのは、市場（参加者）が単一のグローバル基準に基づいた財務報告（財務報告のグローバル化）の必要性を訴えていることであるが（Anonymous[2007], p.75: [2013], p.14: [2015]: Danjou[2015b], p.1: Hoogervorst[2011], p.41; [2012a], p.9; [2012b], p.3; [2014b], p.2; [2015c], p.2: Kabureck[2016]: Mackintosh[2014a], p.2; [2014c], p.5; [2014d], p.1; [2014e], p.1: Pactor[2005], p.72; [2014], p.6, 8: Smith[2009], p.1: Toker[1997]; [1998]）、そうした主張はその弊害を論拠にしていると思われる。同時に、各国のローカル基準はもはや無用であり（Mackintosh[2014c], p.2）、ローカル基準の適用は当該国株価の相対的な下落などデメリットすら生じさせる（Ochi[2014]）という主張も見られるが、これらは「市場が求める財務報告のグローバル化」の必要性と表裏一体の関係を成している。

以上のような、一般論としての「高品質な財務報告基準の必要性」と、世界経済のグローバル化の現状を論拠とした「財務報告のグローバル化」という2つの主張がIASBの目的を支える大義となっていると考えてよい。IASBの目

的とは、すなわちグローバルに認められた1組の高品質の財務報告基準を開発し（Danjou[2013], p.3: Hoogervorst[2014a], p.2: Kabureck[2016a], Kalavacherla[2011]: Mackintosh[2014c], p.2; [2014e], p.1: Smith[2009], p.2）、それによって資本市場の効率性を実現することである（Hoogervorst[2015a], p.2: Mackintosh[2014e], p.1: Ochi[2014]）。

またIASBの目的とともに、IASBの基準設定へのアプローチとして、原則主義の有効性がいくつかのコメントに散見される（Hoogervorst[2011], p.38: Kabureck[2016b], Scott[2014]: Toker[2015], p.7）。グローバル化した今日の市場経済の特徴は、そこで展開されるビジネス活動が極めて複雑化している（Hoogervorst[2011], p.41: Toker[2015], p.3）点にある。こうした状況において生じる諸問題に細則主義で対応することは極めて難しい（Kabureck[2016b], Scott[2014]）。ゆえに原則主義アプローチが選択されることになると考えられる。

かくして「市場経済と財務報告の関係」および「近年の資本市場のグローバル化」という視座から、IASBの目的および基準設定へのアプローチが論理的に導出されることになる。



図Ⅰ. グローバル化する市場経済におけるIASBの役割

## 4-2. 図Ⅱ：IASB および IFRS が備えるべき諸要件

IASB が設定しようとする 1 組の高品質なグローバル基準がいかなるものかについては、それが備えるべき様々な性質を上げながら説明される。具体的には IFRS によってもたらされる「透明性」(Hoogervorst[2014b], p.1; [2015a], p.2: Toker[1997])、「説明責任」(Hoogervorst[2015a], p.2)、「効率性」(Hoogervorst[2015a], p.2)、「比較可能性」(Toker[1997])、あるいは経済的事実の記述に関する「忠実性」(Hoogervorst[2015b], p.3) および「中立性」(Hoogervorst[2011], p.39; [2015b], p.3: Smith[2009], p.3) といった性質が指摘される。

理事のコメントは、IFRS が備えるべき性質のみならず、IASB が組織として備えるべき性質にも言及する。たとえば、IASB が特定の団体に偏っているように見えてはならないこと、すなわち中立的な外観 (Hoogervorst[2011], p.38; [2014b], p.2) あるいは独立性<sup>8</sup> (Danjou[2013], p.3: Hoogervorst[2011], p.40; [2014b], p.2: Mackintosh[2014a], p.5: Toker[1997])、基準設定プロセスの透明性 (Danjou[2013], p.3: Hoogervorst[2015b], p.4: Mackintosh[2014a], p.5: Prabhakar[2011], p.3)、説明責任 (Danjou[2013], p.3: Mackintosh[2014a], p.5) などが IASB に必要な特質として論じられる。

IFRS および IASB が備えるべきこれらの性質・要件は、おそらくは Mackintosh[2014a] が用いる「公益性 (public interest nature)」(p.5) という表現によって集約できるのであろう。この「公益」<sup>9</sup> という言葉は他の理事のこ

メントにも散見される (Hoogervorst[2014b], p.1; [2015a], p.2: Scott[2015a])。そこではいずれも資本市場または金融市場の健全な機能に資するという意味で「公益」という言葉が使われている。つまり、透明性をはじめとする上記の諸概念が IASB および IFRS に備わることにより、それらが効率的市場、ひいては経済成長へ寄与する形で「公益」性を発揮できると考えられているのであろう。

IFRS および IASB の公益性を担保する要件の中で注目されるのは「透明性」「説明責任」「中立性」という概念が重複していることである。このことは、公益性を構成する諸概念の中でもこの3つが IASB にとって特に重要性が高いことを意味していると解される。すなわち、IASB が、透明性が高く、誰に対しても中立的かつ説明可能な方法で基準を設定しているからこそ、その基準に準拠することによって、透明で、説明責任を果たすのに役立ち、すべての利用者に (偏りなく) 有用な財務情報もたらされるという信条がそこに見取れる。

このことは、ほとんどの理事が何らかの形で IASB のその「デュー・プロセス (Due process; DP) の重要性」に言及していることからうかがい知れる。たとえば Mackintosh[2014a] は、IFRS がグローバル基準としてステークホルダーのニーズを満たすよう基準設定を行うこと

---

責任及び効率性をもたらす IFRS を開発すること」であり、その作業は「グローバル経済に信頼、成長、長期の金融安定をもたらすことで公益に資する」(<https://www.ifrs.org/about-us/who-we-are/>) ことが 2015 年 4 月に宣言されている。「公益」については他の理事のコメントにも散見されるが (Hoogervorst[2014b], p.1; [2015a], p.2: Scott[2015a])、中でも Scott[2015a] は、2012 年に IASB メンバーを辞任した Paul Pactor 氏による「資本提供者がその貸し付けや信用取引、投資意思決定にあたって基礎とする優良な情報を得られる時、重要な公益が満たされる」という記述を引用している。Pactor 氏の記述がいつ公表されたものであるかは明らかにされていないが、2015 年に MS において「公益」という言葉が採用される以前から、メンバー間ですでに「公益性」という概念が共有されていた可能性がある。

8 IASB の独立性について Danjou[2013] が述べているのは、IASB のガバナンスという観点からの「この独立した団体 (筆者注: IASB) と他の関連機関との間の適切な関係を確かなものにする」ことの重要性についてである。独立した団体として、他団体との適切な関係構築を目指すという意味で、この指摘も IASB の独立性に言及したコメントと考えられる。

9 「公益」という言葉は IASB の標語でもあり、IASB のミッション・ステートメント (Mission Statement: MS) にも見られる表現である。すなわち IASB の使命は「世界の金融市場に透明性、説明

がIASBの役割であると述べた上で「IFRSは高品質で、排他的でない透明なDPを通じて開発されるべき」(p.3)と述べている。これは開かれた、透明性の高いDPがIFRSの質を保証することを端的に指摘するコメントと言えよう。

様々な利害関係者に対し門戸を開いた“全員参加型”またはコンセンサス方式による基準設定プロセスの重要性(Anonymous[2013], p.14; Hoogervorst[2012b], p.6; [2015c], p.3; Mackintosh[2010], p.24; Scott[2015a]; Toker[1997])やIASBの基準設定への各国基準設定主体による積極的関与の重要性(Anonymous[2015], p.23; Toker[1998])を指摘するコメントも少なくない。また、利害関係者の中でも特に投資家の関与を重視する見解(Finnegan[2012a]; [2012b], p.1; Mackintosh[2014e], p.1)も見られた。これらを総合すれば、投資家を中心とした財務情報の利用者や利害関係者および様々な国がオープンに参加することのできる基準設定のDPの存在が、IASBおよびIFRSの公益性を支える具体的要件として考えられていると言える。

DPの重要性とともに多くの理事が指摘するのがIFRSに関する「一貫した採用・適用・解釈の重要性」である。たとえばPactor[2013]はグローバルな単一の財務報告基準を実現するために必要なのは各国によるアドプション(採用)であると述べている(Pactor[2013], p.52)。他のコメントにおいても単一グローバル基準実現へのアドプション方式の有効性(Kalavacherla[2011], p.1; Maher[2009]; Mackintosh[2014c], p.4; [2014d], p.1; [2015]; Smith[2009], p.2)ならびにコンバージェンス方式の非有効性(Anonymous[2010], p.23; Anonymous[2015]; Mackintosh[2014a], p.3; [2014b], p.6; [2014c], p.2, 4; Toker[2005], p.50)を指摘する声は多い。

またIFRSの一貫適用の重要性に関するコメント(Danjou[2015b], pp.2-3; Flores[2013], p.9; Mackintosh[2014b], p.5; [2014d], p.6; [2014e], p.2; Pactor[2005], p.81; [2014], p.6; Toker[2000])も多い。その代表的なものとしてMackintosh[2014e]は、IFRSの便益を完全に引き出すためには、IFRSをアドプションするだけでは不十分であり、適切な施行と基準の

適用が重要である(p.2)と指摘する。これは、たとえ1組のIFRSを採用したとしても、特定の基準や処理規定の適用を任意または免除としては意味がないということと解される。さらに、実務の段階でIFRSの解釈が一貫している必要があることを主張するコメント(Mackintosh[2014d], p.7; Kabureck[2016b], Toker[1997]; [2005], p.56)も見受けられた。

すなわち、IFRSが単一のグローバル基準として十分に機能するためには、IFRSをカーブ・アウトや改編することなく各国基準として採用し、国内企業に一貫して適用させ、現場での解釈に大きなばらつきが出ないように図るべきであるというのが、理事の大勢を占める見解だと考えてよい。

以上で指摘された①DPの適切性と②採用・適用・解釈の一貫性に関する議論は、それらが実現することにより、IFRSが高品質な単一のグローバル基準としての普遍性を帯びるという結論へと間接的に向かっていくことになる。上記①および②が現実に達成されていることを示すために用意されているのが、各国におけるIFRSをめぐる動向・対応に関する逸話の紹介である。

#### 4-3. 図Ⅲ：IASBの基準設定における協働体制の確立

今回の調査で対象としたコメントにおいて、多くの理事が言及していることの1つは、IASBの近年の基準設定プロセスである。その特徴として、すべての国のあらゆる利害関係者が平等に参加可能であり(Ochi[2015])、かつその参加者がIASBと直接対話しながら基準を策定していく(Finnegan[2012b], p.2)、いわゆる「全員参加型」(Ochi[2015])の基準設定が行われていることが語られる。

基準設定プロセスに関連するコメントは2種類に大別される。すなわち、①IASBが近年構築してきた「新たな基準設定機構」を紹介するもの、ならびに②「基準設定における各国利害関係者との協働の実例」を紹介するものである。

①についてもっとも多いのは、2013年に発足した会計基準アドバイザリー・フォーラム(Accounting Standards Advisory Forum: ASAF)への言及(Flores[2013], p.9, 11:

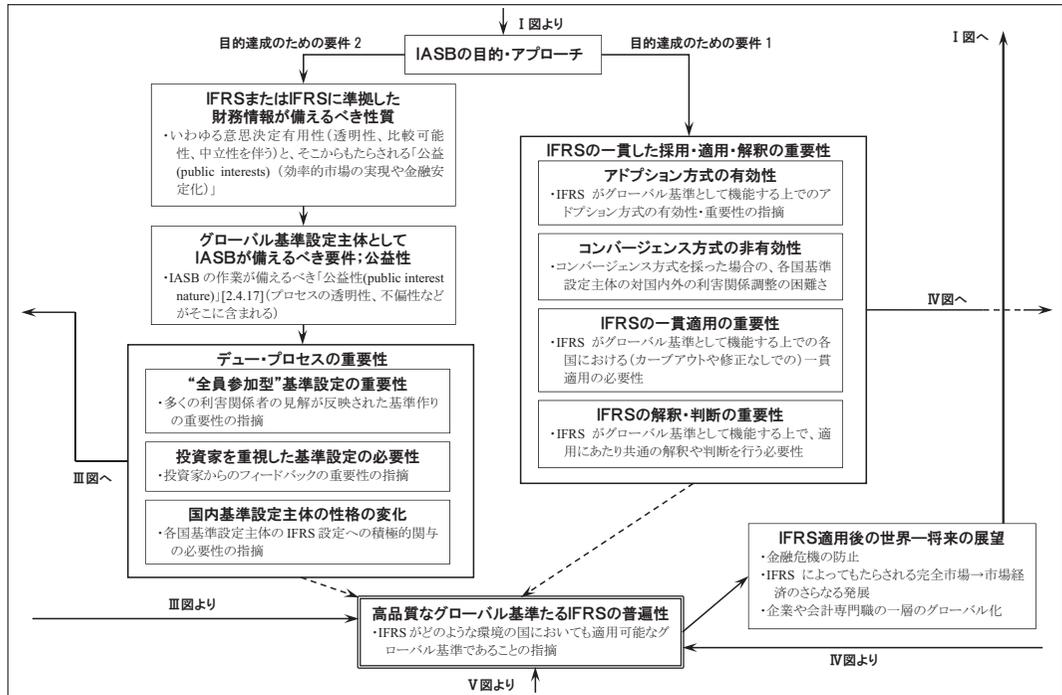


図 II. IASB および IFRS が備えるべき諸要件

Mackintosh[2014a], p.5; [2014b], p.5; [2014c], p.5; [2014e], p.2; Ochi[2015])である。いずれのコメントも、ASAFが各国・地域の代表者との意見交換の場として、IFRS設定プロセスの充実に資するものであったことを主張している。他には、各国証券規制当局や証券監督者国際機構(International Organization of Securities Commissions: IOSCO)とIASBとの協力体制(Mackintosh[2014b], p.5; [2014d], p.7; [2014e], p.2)、新興経済圏グループ(Emerging Economies Group)の発足(Hoogervorst[2012a], p.9; [2016], p.4)、東京におけるIASBアジア太平洋オフィスの開設(Ochi[2014], [2015])、などが取り上げられ、IASBがより広範な地域との協働体制を構築してきた様子を伝えている。

②に含まれるものとしてもっとも多いのは、IASBが各国の会計基準設定主体と密接に連携し、各団体の意見を尊重しながら基準設定やコンバージェンスのための作業を行ってきたことを述べるコメント(Anonymous[2015]: Danjou[2015a], pp.2-3; Hoogervorst[2011], p.40; [2012a], p.6, 9; [2015a], p.5; [2015b], pp.1, 4; [2016], p.3; Kabureck[2016a]: Lloyd[2015], p.23:

Mackintosh[2010], p.24; [2014a], p.4; [2014b], p.4; [2014c], p.4; [2014d], pp.6-7; Ochi[2014]: Toker[1997])である。また、IFRSの設定にあたっては、IASBと各国基準設定主体のみならず、各国基準設定主体間でも連携が図られていること(Flores[2013], pp.9-11; Toker[1997])も指摘されている。他には、IASBによる新興経済諸国への配慮や支援(Hoogervorst[2012a], p.9; Maher[2009])、金融・証券規制当局との協働(Danjou[2015b], p.3; Hoogervorst[2012b], p.4; [2014a], p.2; Smith[2009], p.5)、G20からの支持・要請を受けながらのIFRS設定(Danjou[2013], p.3; [2015b], p.4; Hoogervorst[2012b], p.3; Smith[2009], p.4)などに触れるコメントも散見される。

こうした逸事の数々は総体として、IASBが築いた協働体制を通じ、あらゆる地域の各種利害関係者がIFRS設定に関与していることの証明となっている。それはひいては、すべての人々の見解を反映して設定されているという点で、IFRSが単一のグローバルな財務報告基準としての普遍性を有していることの証左にもなっている。

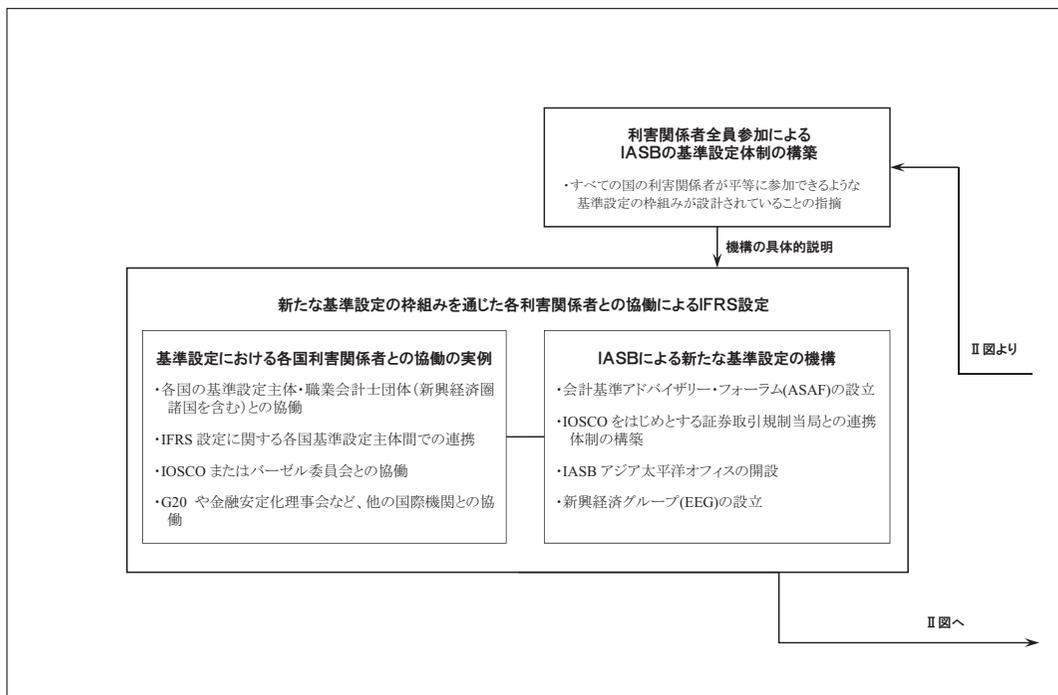
#### 4-4. 図Ⅳ：IFRS採用・適用・解釈とその具体的便益

IFRS設定プロセスに関する逸事と並んで数多く紹介されているのが、IFRSを使用している国の多さを示す事例である。それらは、大きく①各国におけるIFRS採用事例、②各国企業による自主的なIFRS適用、③特定の企業内におけるIFRSの統一的解釈の確立に関する事例の3つに分類される。

①に属するコメントでもっとも多いのは、IFRSがいまや世界100ヶ国以上で採用されているという実績に触れるもの（Danjou[2013], p.3; [2015a], p.1; [2015b], p.4: Flores[2008], p.3: Hoogervorst[2012a], p.6; [2014b], p.2; [2015a], p.3; [2015c], p.4; [2016], p.2: Mackintosh[2014a], p.2; [2014b], p.4: [2014c], p.2; [2014d], p.2; [2014e], p.2: Pactor[2014], pp.6-8: Ochi[2014]: Smith[2009], p.2: Toker[2005], p.49）である。一方IFRSを採用していないアメリカ（Anonymous[2015]: Danjou[2015b], p.4; Flores[2008], p.3: Hoogervorst[2011], p.40; [2012a], p.9）、日本（Hoogervorst[2016], p.2; [2015c], p.5: Ochi[2015]）、インド（Anonymous[2015], Hoogervorst[2015a], p.3;

[2015c], p.5; [2016], pp.2-3: Kalavacherla[2011], pp.3-4）、および中国（Danjou[2015a], p.3; [2015b], p.7; Hoogervorst[2015a], p.4; [2015c], p.5; [2016], p.2: Kalavacherla[2011], p.3）などについては、当該国の基準設定主体とIASBによる努力の結果、互いの基準の内容が極めて近いものになっていることが語られている。さらに理事のコメントは、それらの非採用国が同国企業に対しIFRS適用を容認していることにも及んでいる（Danjou[2013], p.3; [2015a], p.1; [2015b], p.5, 7: Hoogervorst[2015a], pp.3-4; [2016], p.3: Kalavacherla[2011], p.2）。短言すれば、世界中の国においてIFRSが採用もしくは容認されている様子が繰り返し語られている。

②として整理したコメントには、IFRS非採用国におけるIFRS適用企業数の増加（Danjou[2015a], pp.2-3; [2015b], p.6: Mackintosh[2014a], p.3; [2014b], p.7）、多国籍企業による積極的なIFRS適用（Danjou[2015a], p.3; [2015b], p.7: Hoogervorst[2012b], p.3: Mackintosh[2014d], p.2）などがある。さらに、大手会計事務所によるIFRS採用・適用の支持（Toker[2005], p.51）なども②に分類されよう。



図Ⅲ. IASBの基準設定における協働体制の確立

③にカテゴライズされるのは Toker[2005]におけるコメントのみである。そこでは大手会計事務所によるメンバーファーム間での、IFRSの解釈指針の開発事例を詳しく紹介しながら、基準の統一的解釈の重要性が指摘されている。

同時に理事の多くが言及するのは、各種の利害関係者がIFRSの採用・適用によって享受している具体的便益についてである。中でも多いのは、投資家および発行体にとっての便益に関するコメントである。投資家が受ける便益としては、IFRSにより高品質な財務情報に基づく投資意思決定が実現されること (Danjou[2015b], pp.2-3; Hoogervorst[2012a], p.6; [2015a], p.2; Pactor[2005], p.72; Quinn[2010], p.35)、異なる基準に基づく財務諸表を比較するために必要な調整計算のコストを削減できること (Pactor[2014], p.10) があげられている。発行体については、資本コストの低減 (Hoogervorst[2015a], p.2; [2016], p.3; Ochi[2014])、財務情報作成コストの低減 (Danjou[2015a], p.2; [2015b], p.6; Hoogervorst[2015a], p.2)、海外投資家からの資金調達の容易化 (Anonymous[2015]: Hoogervorst[2012b], p.6; Kalavacherla[2011], p.2; Ochi[2014]; Scott[2015b], p.4)、海外連結子会社を含めた全社的な統一会計処理の実現 (Hoogervorst[2012b], p.2) やそれに伴う統一的経営指標の確立 (Ochi[2014])、競合他社や提携先ならびに潜在的な買収ターゲットが行う財務報告内容に関する理解度の向上 (Mackintosh[2014e], p.1; Ochi[2014])、コーポレートガバナンスへの寄与 (Hoogervorst[2012b], p.3) など広範なメリットが列挙される。

メリットを享受するのは上場企業にとどまらず、中小企業にとっても資金調達の容易化 (Anonymous[2015]: Scott[2015a]) や財務報告の改善 (Flores[2008], p.3) といった便益が主張され、多くの国で中小企業に対してもIFRSが強制適用されている事実 (Pactor[2014], p.8) も紹介される。資本市場の規制当局にとっては、IFRSの普及が効率的市場実現に寄与すること (Hoogervorst[2012b], p.2; [2015a], p.2; Huber[2010], p.25; Mackintosh) や規制当局スタッフによる作業 (提出された財務諸表のレビュー業務) 負担の軽減 (Pactor

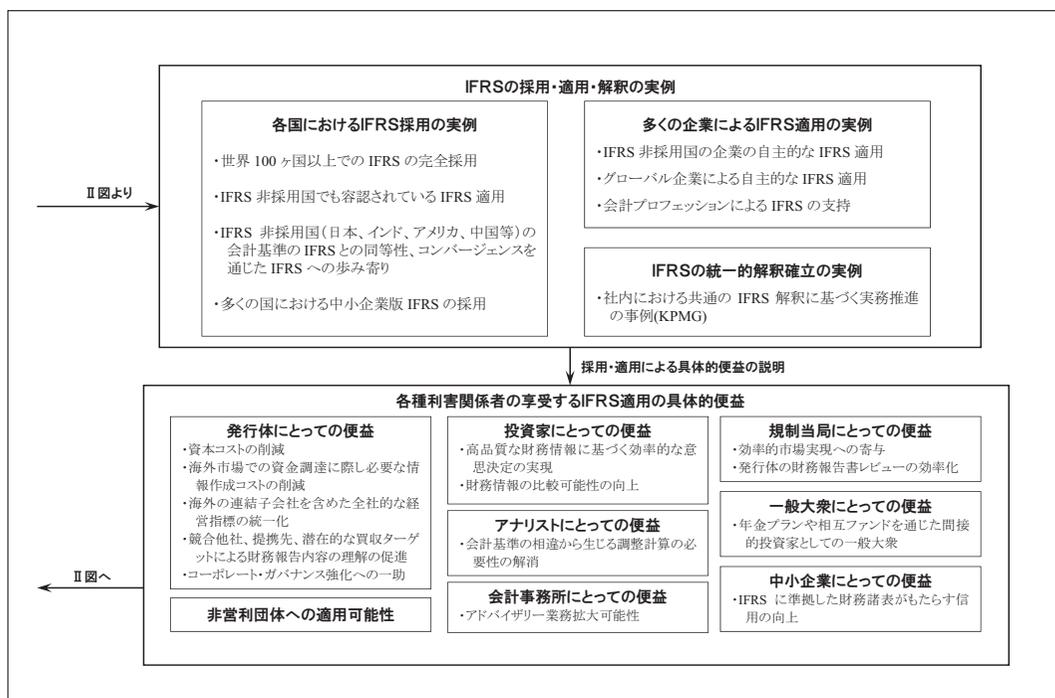
[2005], p.78) がメリットとして指摘されている。さらにアナリストの立場からは、財務報告基準の統一による分析上の至便さ (Fisher[2016]) が示されるとともに、非営利団体 (Scott[2015b], p.4)、一般大衆 (Hoogervorst[2015b], pp.2-3) や得意先、仕入先、従業員 (Danjou[2013], p.14) に対してもさまざまな便益のあることが主張される。一方、IFRSの生む便益とは少々異なるが、IFRSの新規適用企業が増えることにより、IFRS切り替えの支援業務の依頼が増加するという意味で、会計事務所にとってビジネス・チャンスがもたらされるという指摘 (Toker[2005], p.58) も見られた。総じていえば、IFRSというグローバルな統一基準は、あらゆる利害関係者に機会の拡大と便益をもたらす (Danjou[2013], p.14; Finnegan[2012b], p.1; Toker[2005], p.65) ものとして論じられている。

以上のように多くの理事によって繰り返されるこれらコメントは次のことを含意しよう。それは、IFRSが各国において首尾一貫した形で採用・適用・解釈されることにより、あらゆる利害関係者がさまざまな形での便益を享受しているということである。このことは、図Ⅱにおいて示された、IFRSが高品質な単一のグローバル基準として機能するための要件である「首尾一貫した採用・適用・解釈」が実現していることを明らかにし、ひいてはIFRSがどのような環境下でも適用可能な基準であること—IFRSの「普遍性」の証拠として機能している。

#### 4-5. 図Ⅴ：EUにおけるIFRS採用

図ⅢおよびⅣで示されたIFRSに関する多くの逸話は、いずれもIFRSの普遍性を証明する役割を果たしているわけだが、その中にはEUに関するものも含まれている。EUについてのエピソードは、他の地域のそれらとは独立した形で、IFRSの普遍性を証明するもう一つの証拠の役割を果たしている。

たとえば、2000年以降EU域内の金融サービスおよび資本市場の統合が加速したこと (Hoogervorst[2015c], p.2) や欧州金融危機を契機として欧州企業の資金調達が間接金融から直接金融にシフトしていること (Hoogervorst[2014b], p.1; Mackintosh[2014e], p.1) がEUの近況として語られる。一方、そうした状況の



図Ⅳ. IFRS 採用・適用・解釈とその具体的利益

EUにおいて、IFRSが好意的に受け入れられたこと (Danjou[2015b], p.4; Hoogervorst[2015a], p.2)、さらにIFRSは、ただ一度のカーブ・アウト (IAS39号)を除けば、すべて正式にエンドースされ (Mackintosh[2014a], p.4)、しかもカーブ・アウトしたIFRSを適用して財務諸表を作成している域内企業はほんのわずか<sup>10</sup>であることが指摘される。

この2種類のコメントはEUにおける財務報告基準をめぐる動向の原因と帰結という関係を成す。すなわち、Mackintosh[2014a]が述べているように、EUにおけるIFRSの採用は欧州の統合市場による選択の結果である (Mackintosh[2014], p.4) というロジックを成立させている。

またEUに関するコメントの中でも、IFRS設定やその採用に至るDPが論点として取り上げられている。具体的には、EUとIASBとの連携の必要性 (Anonymous[2007], p.75)、ならびにその連携が十分に図られてきたという事実 (Hoogervorst[2014b], p.2; [2015c], p.1)、

さらには欧州財務報告諮問グループ (European Financial Reporting Advisory Group; EFRAG) によるエンドースメントのDPの有効性 (Flores[2013], p.9; Pactor[2014], p.9) が指摘される。

Hoogervorst[2015c]は、従来ヨーロッパでは、会計に対するアプローチが多様であり<sup>11</sup>、このことが欧州における会計基準の調和化を阻んできた原因であると断じている (Hoogervorst[2015c], p.2)。このことを前提とすれば次のように考えることができる。すなわち、EU域内には会計のアプローチをめぐる加盟国間で大きな差異があるものの、IASBとEU間、あるいはEU内で充実したDPが存在する。このDPでの議論を経ているからこそ、IFRSが域内統一基準として成功裏に採用されてきた。短言すれば、適切なデュー・プロセスの存在がIFRS採用の根拠であるというロジックを成立させて

10 Danjou[2015a]によればIFRSを適用している欧州の公開企業8,000社のうちわずか20社である。

11 具体的には「多くの欧州諸国では税務と結びついた法律ベースの会計基準が一般的であったのに対し、英国、オランダ、スカンジナビア諸国は既存の会計実務に対する凡例ベースのアプローチが主流であった。」 (Hoogervorst[2015c], p.2)

いることになる。

域内におけるIFRS採用によって生じる便益は、マクロ・ミクロの両レベルで語られる。前者については、IFRSという域内市場の統一言語が誕生したことによる投資家保護の促進(Hoogervorst[2014b], p.1)、公正で厚みのある域内金融市場の実現、欧州経済の健全化、ならびに欧州市場・経済への信頼性の創出(Danjou[2015b], p.8)といった効果が上げられている。後者については、欧州企業の資本コストおよび各種コストの低下(Anonymous[2015]: Hoogervorst[2014b], p.1)や域内における資金調達容易化(Danjou[2015b], p.8)などが主張される。さらにIFRSの採用は、欧州域内での資金調達に占める投資家の役割の増大(Danjou[2015b], p.8)、あるいはEU経済の一層の活性化(Hoogervorst[2014b], p.1; [2015c], p.1)につながることも指摘されている。

これらを総括すれば、IFRSの採用がマクロ／ミクロ・レベルで便益を生み、その便益が欧州資本市場や欧州経済のさらなる発展につながるというロジックが見えてくる。すなわち、EUにおけるIFRS採用の背景であった欧州統一市場の進展を、IFRSの域内採用が一層促進するという循環論が成立することになる。

さらにEU域内のIFRS支持が、その後域外各国でのIFRS支持・普及につながっていった(Danjou[2012a], p.3; Flores[2013], p.9; Hoogervorst[2014b], p.2; Mackintosh[2014d], p.2; Pactor[2013], p.50; [2014], p.50; Smith[2009], p.2)という主張が複数の理事のコメントに見られる。これは、EUにおけるIFRSの成功談がその論拠になっていると考えてよいだろう。つまり、従来見られた会計の多様性にも関わらず、EUがIFRSを採用し、域内統一基準を持ちえたということは、ひるがえってIFRSがどのような会計の伝統を持つ国にとっても受け入れ可能なグローバル基準としての正統性を持っていることを意味するからである<sup>12</sup>。

12 事実、Hoogervorst[2015c]はこのことを明確に主張している。「欧州のIFRSに関するこの10年の経験は、高品質な1組の会計基準が、規模、金融システムの発達の度合いや資本市場の深度、文化や法的環境の違いなどに関係なく、どの国でも一貫

IFRSがどの国でも受け入れ可能な単一のグローバル基準としての普遍性を持っていること(Danjou[2015b], p.7; Hoogervorst[2015b], p.4; [2015b], p.1; [2015c], p.4; Moackintosh[2014b], p.7; [2014c], p.3; [2014d], p.5; Ochi[2014])が何名かの理事によって主張されているが、これは図Ⅲ、Ⅳ、Ⅴを根拠とした主張であると考えてよい。このIFRSの普遍性は、IFRSのさらなる普及がグローバルな市場経済の一層の進化や発展につながるという主張の根拠となっていると考えられる。ここで言う「進化や発展」とは、具体的には、世界の資本市場の一層の効率化や統合(Danjou[2015b], p.2; Finnegan[2012b], p.1; Hoogervorst[2014a], p.2; [2016], p.2)、金融危機の防止(Finnegan[2012a]: Hoogervorst[2012b], p.6; [2012c], p.2; Kalavacherla[2011], p.2; Scott[2014]: Smith[2009], p.1)、企業による国際的活動の容易化(Hoogervorst[2016], p.3)、会計専門職のグローバル化(Anonymous[2015]: Mackintosh[2014d], p.1)、ビジネスモデルの変化(Ochi[2014])などである。これらはそもそもグローバルな単一基準を必要とする前提条件として語られていたことである。つまり、ストーリーの帰結が出発点に戻るという点で、図ⅠからⅤは全体として壮大な循環論を形成している。またこの構造は図ⅤのEUに関する論理展開と同じである。換言すれば、EUはIFRSが普及した世界の縮図として、ストーリー全体のリアリティを支えていると言ってよい。

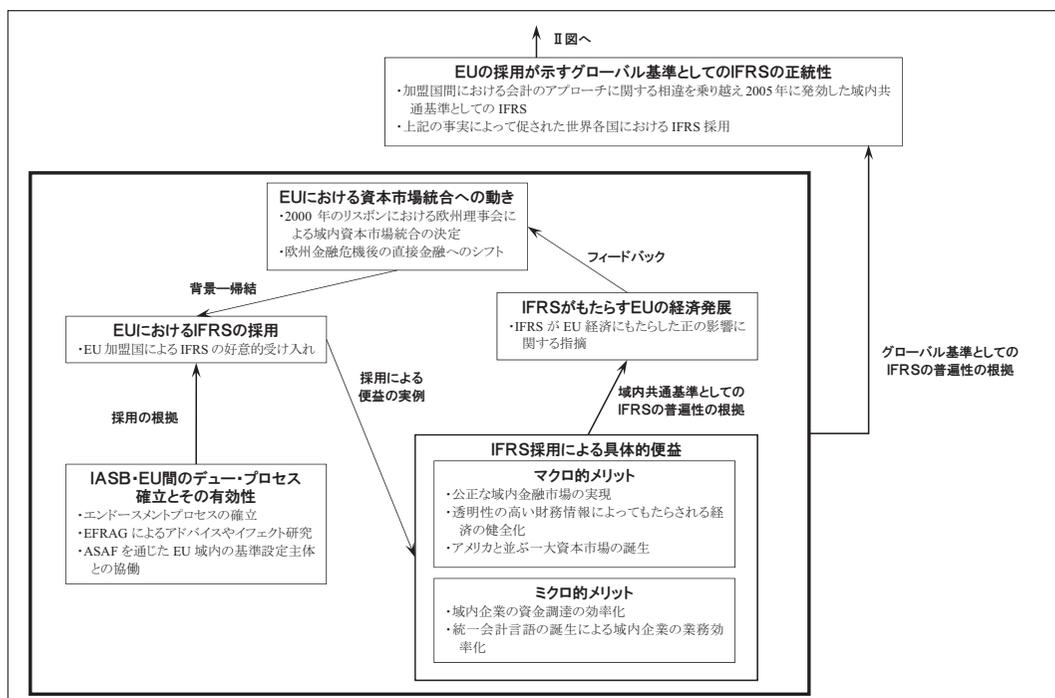
## 5. 論理構造に関する分析

ここで前節において示したIFRS設定に係る論理構造の中に、Steger[2013]による5つの市場派グローバリズムの言説に通じる箇所があるかどうか検討してみたい。

### 5-1. 言説1について

言説1について考える上で注目したいのは、上記の論理構造の出発点であり、帰着点ともなっている「資本市場のグローバル化」である。中でも重要だと思われるのは、資金調達手段が

して採用されうることを証明している」(p.4)。



図V. EUにおけるIFRS採用

直接金融から間接金融へシフトしつつあることについてのコメントであろう。

Steger[2013]は、言説1の一例としてビジネス・ウィーク(1999年12月13日号)の一節を上げているが(Steger[2013], p.108)、ここでは「グローバリゼーションは政府に対する市場の勝利を本質とする」ものであり、「推進力は市場である」(Anonymous[1999], p.212)ことを誰もが認めていると主張されている。「直接金融から間接金融への世界的なシフト」(図I)は、市場を通じた資金調達が主流になりつつあるという意味で「市場の勝利」を示唆していると言ってよいだろう<sup>13</sup>。

さらにSteger[2013]は、市場に取って代わられた政府の役目について触れた発言として、クリントン政権下の国務次官・ジョーン・スパイロ氏を取り上げる。スパイロ氏によれば、政

府に残された役割は「財・サービス・資本の自由な流れに対する障壁を取り除くこと」<sup>14</sup>であるという(Steger[2013], p.108)。図Iでは、資本市場がグローバル化した昨今において会計の国際的多様性が障害の1つと見なされ、そこからグローバルな統一基準の開発というIASBの目的が導出されるというロジックが示されている。もちろんIASBは政府のような機関ではないが、会計を規制する一機関の目的として、グローバル市場における障壁(障害)の除去が志向されている点はスパイロ氏の論調に通じる所がある。

また、資本市場のグローバル化の一面として「世界的な規制緩和・撤廃の進展とその重要性」と「資本市場間の相互連携の進展」が語られている(図I)ことは、グローバリゼーションと市場の自由化・統合が関連付けられていることを意味しよう。以上の点に鑑みれば、IASBのロジックには市場グローバリズムの言説1につながる思考が見て取れる。

13 Hoogervorst[2012a]は、銀行システムの脆弱性や資金調達における銀行への依存度が低い国ほど金融危機からの回復が早いことを指摘した上で「直接金融へのシフト」に言及している。これは「銀行システムに対する市場の勝利」と読むことができよう。

14 Steger[2013]ではスパイロ氏の発言の出典が示されていない。

## 5-2. 言説2および3について

Steger[2013]は、新自由主義の支持者たちが「グローバルな市場の自由化と統合を、個人的自由と物質的進歩を世界に促す“自然な”現象であることを示している」と指摘する。この「自然現象」としてのグローバリゼーションの主張は、言説2および3が意味するグローバリゼーションの「非可逆性」と「非人為的性質」に依拠する所が大きいと思われる。

そこで注目すべきは、IFRS設定に関する論理構造に見られた「循環性」である。市場のグローバル化から単一のグローバル基準たるIFRSが生まれ、そのIFRSがより完全な市場経済をもたらし、企業や会計専門職の一層のグローバル化を促すロジックに「可逆性」と「人為性」は見られない。それは、Steger[2013]の表現を借りれば「市場の自然法則が新自由主義的な歴史の成り行きを運命づけて」(Steger[2013], p.110) いるようなレトリックを成している。

## 5-3. 言説4について

言説4についてSteger[2013]は「すべての人々にとっての利益」が「取引の自由化の結果生じると主張される利益」(Steger[2013], p.112) として論じられる場合が多いことを指摘している。この場合の「取引の自由化」とは、すなわち効率的な市場を通じた取引の実現と理解できよう。

IASBの備えるべき要件は「公益性」である(図II)。公益性は、それを文字通り解釈すれば、社会一般(つまりすべての人々)に利益をもたらす性質を意味する。またIASBの理事は、前節で述べたように、「公益性」を資本市場・金融市場の健全な機能に資するという意味で使っている。この点に言説4との通底を見ることができる。

さらに図IVは、それ全体が世界各国におけるあらゆる利害関係者にとってのIFRSの便益を主張する内容となっている。IFRSの普及を会計のグローバリゼーションと捉えれば、それが文字通り「すべての人々にとって利益をもたらす」様子がそこに描かれている。

## 5-4. 言説5について

言説5において言及される民主主義の普及がIFRSと直接関係を持つとは考えにくい。ただ、図IIの「デュー・プロセスの重要性」に関する論調には、言説5に通じる部分がある。Steger[2013]は、言説5の文脈における「民主主義」は、単に“選挙などの手続きを経た政治的・経済的意思決定手続き”という形式的な意味で用いられているにすぎない(Steger[2013], p.115) ことを指摘し、その上で「実際には権威主義的な構造に民主主義的な要素で細工を施し、選ばれた人々を大衆の圧力から遮断し、“効果的な”統治を可能ならしめる」意図が含まれていると批判する(Steger[2013], pp.115-117)。

IFRS設定のデュー・プロセスに関しては、多くの利害関係者の意見を反映させることが可能であること、すなわち基準設定プロセスの民主性がIASBの理事によって強調される。さらに、それを可能ならしめる理由としてASAFなどの機構とそれを通じた関連機関との協働の様子が引例される(図III)。ところが現実には、Büthe and Mattli[2011]が指摘するように、民間による基準設定の過程において意見を発信することは、相応の技術的専門知識と財務的資源が必要となる(Büthe and Mattli[2011], pp.45-48; 邦訳[2013], pp.44-46)。さらに彼らを実証したように、各国の関連制度の構造如何により、利害関係者が及ぼす基準設定へ影響力は変化する<sup>15</sup>。

IFRS設定プロセスについてのコメントをそのまま言説5として解釈することはできないが、意思決定プロセスの形式的な民主性を強調するロジックは両者に共通している。

15 Büthe and Mattli[2011]は、国際基準設定機関と国内基準設定機関との制度補完性に着目し、国内の利害関係者の意見を集約するのに適した会計制度構造を持つアメリカが、EUと比べた場合、その制度構造の優位性を活かし、IASBの基準設定に効果的に影響力を行使し、ベネフィットを享受していることを、両法域の利害関係者に対するアンケート調査をもとに明らかにしている。詳細についてはBüthe and Mattli[2011]の第4および5章を参照されたい。

## 5-5. 理事による個別の発言内容

第3節において、本稿では理事の個別の発言を取り上げ、紹介することはしないと述べた。だが実際に各理事の発言を整理していくと、Steger[2013]による新自由主義的言説のいくつかと明らかに一致するコメントが散見された。詳述は避けるが、それらのコメントを表1として掲載する。

## 6. むすび

Steger[2013]やHarvey[2005]はグローバリゼーションのイデオロギー的側面を指摘する。それは、新自由主義的なイデオロギーの普及により、人々がグローバル志向を持つことでグローバリゼーションが促進されているという側面である。それと同様、新自由主義的なイデオロギーがIASBの理事にも共有され、それがIFRS設定の理念となっているのみならず、それらが理事の発言としてメディアを通じて拡散することにより、IFRSの普及（いわば会計のグローバリゼーション）が進んだのではないか。これが本稿の仮説であった。

そこでIASBの理事の持つ理念をあぶり出すべく、第2代議長Hoogervorst氏の下で理事を務めた人々の発言を収録したドキュメントをKJ法によって整理し、グローバル基準としてのIFRS設定の論理構造を明らかにした。Steger[2013]による市場派グローバリズムの5つの言説を視座とし、その論理構造を分析した結果、5つの言説に通底する思考が確認された。このことにより、本稿の仮説の妥当性はある程度高められたのではないだろうか。

ただし本稿での分析は、あくまでSteger[2013]らの、新自由主義的イデオロギーの普及がグローバリゼーションを促進しているという主張を前提としたものである。IASB理事による発言が、そうしたイデオロギーを示唆するメッセージとして実際に各国の利害関係者に受け止められているかどうかについては検討していない。ここに本稿の限界と課題がある。

また分析方法に関する問題点を上げるとすれば、KJ法によるドキュメント分析に先んじてSteger[2013]の市場派グローバリズムを取り上げたことである。KJ法を用いる場合には「『こ

ういう結果がでてほしい』という希望的観測で無理にまとめることも禁物」(川喜田[1986], p.78)とされる。今回の分析結果がSteger[2013]の5つの言説に影響されている可能性を指摘されれば、それを完全には否定できない。

このような問題・課題を抱えつつも、IASB理事の理念を明示したことには一定の学術的成果も認められるのではないかと考える。それは、IASBがさまざまな国・地域の専門家の寄せ集めではなく、確固たる1つのイデオロギーを持ったテクノクラート集団だということを明らかにしたことである。単一のグローバル基準の誕生は、人類による経済活動の発展の末の自然な帰結とばかりは言えない側面を持っている。

## 参考文献

- Anonymous[1999], "The Lessons of Seattle," *Business Week*, No.3659 (December 13, 1999), p.212.
- Burlaud, Alain and Bernard Colasse[2011], "International Accounting Standardisation: Is Politics Back?," *Accounting in Europe*, Vol.8 No.1, pp.23-47.
- Büthe, Tim and Walter Mattli[2011], *The New Global Rules -The Privatization of Regulation in the World Economy*, New Jersey, Princeton University Press. (小形健介訳[2013]、『IASB/ISO/IEC国際ルールの形成メカニズム』、長崎県立大学経済学部学術研究会)
- Chiapello, Eve[2016], "How IFRS Contribute to the Financialization of Capitalism," *IFRS in a Global World -International and Critical Perspectives on Accounting* edited by Didier Bensadon and Nicolas Praquin, pp.71-84.
- Harvey, David[2005], *A Brief History of Neoliberalism*, Oxford, Oxford University Press. (渡辺治監訳・森田成也、木下ちがや、大屋定晴、中村好孝訳[2007]、『新自由主義 その歴史的展開と現在』、作品社)
- 平賀正剛[2009]、「試論：レジェンドとは何だったのか—問題発生から10年目の総括—」、『経営学研究』第18巻第3・4合併号、pp.31-43.
- Irvine, Helen[2008], "The Global Institutionalization of Financial Reporting: The Case of the United Arab Emirates,"

表 1：理事による市場派グローバリズム的発言

グローバリズムの言説	Mackintosh 発言
<p>【言説 2】 グローバリゼーションは不可避で、非可逆的である。</p>	<p>彼ら（世界の国々：筆者補足）が他の方向（コンバージェンス以外の方向：筆者補足）に向かう道はない。（中略）最終的には単一の会計言語のみが存在しうる（Hoogervorst[2015c], p.41）。</p> <p>この証拠（多くの国で、経済水準の高低に関わらず IFRS が利用されているということ）は、グローバル基準が望ましいものであり、達成可能なものであり、さらに私見によれば、不可避なものであることを示している（Mackintosh[2014c], p.3）。</p> <p>この短い開会の辞の中で、私は経済のグローバル化がいかにグローバル会計基準の必要性を形成してきたかについて、私見を述べてきました。各国資本市場が引き続き融合し、単一の、大きなグローバルに相互連結した市場を形成することが、財務報告のグローバル言語にとって、いかに喫緊の問題を提示するか。グローバル基準は達成可能なだけでなく、引き続き起こる経済のグローバル化の帰結として不可避です（Mackintosh[2014c], p.5）。</p> <p>私はグローバルな会計基準はもはや避けられないという私の見解を皆さんと共有した（Mackintosh[2014d], p.1）。</p> <p>先進経済と発展途上経済の双方において 10 年間使用されたことは、高品質な 1 組の会計基準を作るという IASB の使命が、望ましく、達成可能であり、<u>不可避なものであることを示している</u>（Mackintosh[2014d], p.5）。</p>
<p>【言説 3】 グローバリゼーションは誰のせいでもない。</p>	<p>この（グローバル社会への；筆者補足）移行は劇的かつあらゆるところに及んでおり、一世代の間に信じられないほどの早さで生じている。境界が少ないほど、投資家、企業、国にとっては機会が増えることになるため、この（グローバル化の；筆者補足）原動力はまた自ら強化（self-reinforcing）される（Mackintosh[2014a], p.1）。</p>
<p>【言説 4】 グローバリゼーションはすべての人に利益をもたらす。</p>	<p>インターネットは、同一の、一組の高品質な基準を採用することから人々がいかに利益を享受するかを示す大きな例である。今日、IFRS は財務報告の世界で同様の機能を全うしている（Finnegan[2012b], p.1）。</p>

【出典】 Finnegan[2012b]、Hoogervorst[2015c]、Mackintosh[2014a]、[2014c]、[2014d] をもとに筆者が作成。

*Accounting Forum*, Vol.32, pp.125-142.

川喜田二郎[1967]、『発想法－創造性開発のために』、中央公論社。

川喜田二郎[1986]、『KJ 法－混沌をして語らしめる』、中央公論社。

Mantzari, Elisavet, Omiros Georgiou and Lisa Jack[2016], *Getting IFRS Accepted: The Power of Common Sense*, <https://pdfs.semanticscholar.org/8e18/a37200d0d0ccdc99fd406357db8c0212d20.pdf> (The Paper submitted in The University of Warwick WBS Accounting Group Summer term held in 27th April 2016)

Power, Michael[2010], "Fair Value Accounting, Financial Economics and the Transformation of Reliability," *Accounting and Business Research*, Vol.40 No.3, pp.197-210.

Pelea, Vera[2015], "Financial Reporting for Varieties of Capitalism: Does a Single Set of

Global Standards Fit for All?," *The EuroAtlantic Union Review*, Vol.2, pp.51-73.

Steger[2013], *Globalization -A Very Short Introduction* (The Third Edition), Oxford, Oxford University Press. (第 2 版については次の翻訳がある。櫻井公人・櫻井純理・高嶋正晴訳[2010]、『新版グローバリゼーション』、岩波書店。)

Zhang, Ying, Jane L. Andrew[2010], "Fair Value Accounting in China: Neoliberalisation and Accounting Change," *Asia Pacific Interdisciplinary Research in Accounting Conference*, pp.1-24.

Zhang, Ying[2011], "Accounting and Neoliberalism: A Critical Reading of IASB/FASB's Conceptual Framework for Financial Reporting 2010," *Critical Perspective on Accounting Conference 2011*, pp.1-22.

Zhang, Ying, Jane L. Andrew[2012],

“Accounting as an Instrument of Neoliberalisation? Exploring the adoption of Fair Value Accounting in China,” *Accounting, Auditing & Accountability Journal*, Vol.25 No.8, pp.1266-1289.

### 分析対象ドキュメント

Anonymous [2007], “IFRS: time to walk away?,” *Accountancy Magazine*, October 2007, p.75.

——— [2010], “An Interview with Ian Mackintosh Chairman, U.K. Accounting Standards Board,” *The CPA Journal*, June 2010, pp.22-26.

——— [2013], “Q&A with Newly Appointed IASB Board Member Gary Kabureck,” *Financial Executive*, April 2013, pp.14-15.

——— [2015], *Benefits of IFRS would start to flow in 2018: Ian Mackintosh*, [http://www.business-standard.com/article/opinion/benefits-of-ifrs-would-start-to-flow-in-2018-ian-mackintosh-115112900674\\_1.html](http://www.business-standard.com/article/opinion/benefits-of-ifrs-would-start-to-flow-in-2018-ian-mackintosh-115112900674_1.html)

——— [2015], *Outside the Comfort Zone* (the interview with Amaro Gomes), <http://www.ibracon.com.br/ibracon/Portugues/detNoticia.php?cod=2555>

——— [2015], “A View from Both Sides,” *A Plus Magazine*, Dec. 2015, pp.18-23.

Bruce, Robert [2011], “One Accounting Language,” *Chartered Accountants Journal*, August 2011, pp.3841.

Cooper, Stephen [2007a], “Discussion of ‘Standard-setting measurement issues and the relevance of research’,” *Accounting and Business Research Special Issue: International Accounting Policy Forum*, pp.17-18.

——— [2007b], “Performance Measurement for Equity Analysis and Valuation,” *Accounting in Europe*, Vol.4, No.1, pp.1-49.

——— [2015], “A tale of ‘prudence’,” *Investor Perspective*, June 2015, IASB, <https://www.ifrs.org/-/media/feature/resources-for/investors/investor-perspectives/investor-perspective-jun-2015.pdf>

Danjou, Philippe [2013], *An Update on International Financial Reporting Standards*

(IFRSs), <http://citeseerx.ist.psu.edu/viewdoc/download?doi=10.1.1.398.487&rep=rep1&type=pdf>

——— [2015a], *Financial Reporting and Financial Markets*, <https://dart.deloitte.com/obj/1/428dd78c-3f34-11e6-95db-31db993ad12f>

——— [2015a], *The extension of the scope of IFRS*, [http://www.dahua-cpa.com/upload/editor/file/20150312/20150312161420\\_9241.pdf](http://www.dahua-cpa.com/upload/editor/file/20150312/20150312161420_9241.pdf)

Finnegan, Patrick [2012a], *Performance Reporting: Back to the Future*, <http://archive.ifrs.org/Investor-resources/2012-perspectives/January-2012-perspectives/Pages/Performance-Reporting.aspx>

——— [2012b], “Back to the Future,” *Investor Perspectives*, 2015 October, IASB, <https://www.ifrs.org/-/media/feature/resources-for/investors/investor-perspectives/investor-perspective-oct-2015.pdf>

Fisher, Liz [2016], “No voice at the standard-setting body the IASB has been more in tune with the investor point of view than that of former equity analyst Stephen Cooper FCCA,” *Accounting and Business*, <http://www.accaglobal.com/in/en/member/member/accounting-business/2016/10/interviews/stephen-cooper.html>

Flores, Françoise [2008], “Preface,” *The IFRS for SMEs accounting standard: perceptions and expectations across Europe*, <https://www.mazars.co.th/mazarspage/download/23212/428107/version/2/file/IFRS+for+SMEs.pdf>

——— [2013], “Report of the EFRAG Chairman Françoise Flores,” *EFRAG Annual Report 2013*, pp.9-11, <https://www.efrag.org/Assets/Download?assetUrl=%2Fsites%2Fweb-publishing%2FSiteAssets%2FAnnual%2520Report%25202013.pdf>

Hoogervorst, Hans [2012a], *Speech by Hans Hoogervorst at Ernst & Young IFRS seminar in Moscow, Russia*, <http://archive.ifrs.org/Alerts/PressRelease/Documents/IFRSHansMoscow2012.pdf>

——— [2012b], *Accounting Harmonisation and Global Economic Consequences*, <http://>

- archive.ifrs.org/Alerts/Conference/Documents/HH-LSE-November-2012.pdf
- [2012c], “Learning from the Asian Crisis,” *Vital Speeches of the Day*, Vol. 69 Issue 1, pp.15-18.
- [2014a], *Keeping capitalism honest*, <http://archive.ifrs.org/Alerts/Conference/Documents/2014/Hans-Hoogervorst-comments-IOSCO-October-2014.pdf>
- [2014b], *Building a credible Capital Markets Union*, <http://archive.ifrs.org/Alerts/Conference/Documents/2014/Speech-Hans-Hoogervorst-EU-December-2014.pdf>
- [2015a], *Financial reporting standards for the world economy*, <http://archive.ifrs.org/Alerts/Conference/Documents/2015/Speech-Hans-Hoogervorst-mission-statement-April-2015.pdf>
- [2015b], *Working in the public interest*, <http://archive.ifrs.org/Alerts/Conference/Documents/2015/Hans-Hoogervorst-speech-WSS-Sept-2015-FINAL.pdf>
- [2015c], *Ten years on, what have we learned?*, <http://archive.ifrs.org/Alerts/Conference/Documents/2015/Hans-Hoogervorst-Milan-speech-Nov-2015.pdf>
- [2016], *The benefits of IFRS Standards to emerging economies*, <http://archive.ifrs.org/About-us/IASB/Members/Documents/Hans-Hoogervorst-Peru-speech-Nov-2016.pdf>
- Huber, Nick [2010], “Rule The World- How Committed is the US to a Global Set of Accounting Standards?,” *Accountancy*, May 2010, Vol.145, Issue 1401, pp.25-26.
- Kabureck, Gary [2016], *Footnotes of the future: reflections from the Disclosure Initiative*, <http://archive.ifrs.org/Features/Pages/Footnotes-of-the-Future-Reflections-from-the-Disclosure-Initiative.aspx>
- [2016], *The case for principles-based accounting*, <https://www.complianceweek.com/news/news-article/the-case-for-principles-based-accounting>
- Kalavacherla, Prabhakar [2011], *Convergence in India- IASB's perspective*, <https://www.iasplus.com/en/binary/resource/1105pkindiaspeech.pdf>
- König, Elke [2012], “It’s Time to Search for Alternatives,” *SPIEGEL ONLINE*, <http://www.spiegel.de/international/business/interview-with-bafin-head-elke-koenig-on-changes-in-banking-regulations-a-846619.html>
- [2014], “Comprehensive Assessment: How to Prepare for the Results and What to Do Next,” *Economics Conference 2014*, pp.42-49, [https://www.oenb.at/dam/jcr:5a9fbbbe-6159-49b1-ab5a-89831001ab54/vowitag\\_2014.pdf](https://www.oenb.at/dam/jcr:5a9fbbbe-6159-49b1-ab5a-89831001ab54/vowitag_2014.pdf)
- [2015a], “Dr. Elke König, outgoing President of BaFin: “Take due account of the differences”,” *BaFin journal*, [https://www.bafin.de/SharedDocs/Veroeffentlichungen/EN/Fachartikel/2015/fa\\_bj\\_1503\\_interview\\_koenig\\_en.html](https://www.bafin.de/SharedDocs/Veroeffentlichungen/EN/Fachartikel/2015/fa_bj_1503_interview_koenig_en.html)
- [2015b], Elke König (SRB): “Our job is to make the banking system safer, to restore confidence, not to orchestrate funerals for big banks. No more bail-outs”,” *ItalyEurope24*, [http://www.italy24.ilsole24ore.com/print/ACwtTHTB/0?refresh\\_ce=1](http://www.italy24.ilsole24ore.com/print/ACwtTHTB/0?refresh_ce=1)
- Mackintosh, Ian [2006], “Discussion of ‘What has the invisible hand achieved?’,” *Accounting and Business Research*, p.63.
- [2014a], *The Importance and Challenges of Establishing Standards for Global Finance*, <http://archive.ifrs.org/The-organisation/Members-of-the-IASB/IASB-speeches/Documents/2014/Hans-Hoogervorst-speech-IFRS-Singapore-May-2014.pdf>
- [2014b], *Turning back the clock?*, <http://archive.ifrs.org/Alerts/Conference/Documents/2014/Speech-Ian-Mackintosh-June-2014.pdf>
- [2014c], *Are truly global standards achievable?*, <http://archive.ifrs.org/Alerts/Conference/Documents/2014/Ian-Mackintosh-speech-Are-global-standards-achievable-August-2014.pdf>
- [2014d], *The Maturing of IFRS*, <http://archive.ifrs.org/Alerts/Conference/>

- Documents/2014/Ian-Mackintosh-Maturing-IFRS-speech-November-2014.pdf
- [2014e], *Prepared remarks by Ian Mackintosh*, <http://archive.ifrs.org/Alerts/Conference/Documents/2014/Ian-Mackintosh-Washington-remarks-December-2014.pdf>
- Maher, Nicola [2009], "The only truly global accounting awards (the interview with Prabhakar Kalavacherla)," *The Accountant*, <http://www.theaccountant-online.com/News/kalavacherla-interview-buckling-down>
- McConnell, Patricia [2010], "Response to 'Fair value accounting, financial economics and the transformation of reliability,'" *Accounting and Business Research*, Vol.40, No.3pp.211-213.
- [2011], *Patricia McConnell: The objective of financial reporting and the qualitative characteristics of useful information- what investors should know*, <http://archive.ifrs.org/investor-resources/2011-perspectives/january-2011-perspectives/Pages/objective-of-financial-reporting.aspx>
- Ochi, Takatsugu [2014], "International accounting standards essential for growth," *Nikkei Asian Review*, <https://asia.nikkei.com/Business/Banking-Finance/International-accounting-standards-essential-for-growth>
- [2015], *Article by Tak Ochi: 'Expectation of Japan'*, <http://archive.ifrs.org/Features/Pages/Expectation-of-Japan-Tak-Ochi-January-2015.aspx>
- Pactor, Paul [2005], "What exactly is convergence?," *International Journal of Accounting, Auditing and Performance Evaluation*, Vol. 2, Nos.1/2, pp.67-83.
- [2013], "What Have IASB and FASB Convergence Efforts Achieved?," *Journal of Accountancy*, Feb. 2013, Vol.215, No.2, pp.50-59.
- [2014], "Global Accounting Standards- From Vision to Reality Assessing the State of IFRS Adoption, Jurisdiction by Jurisdiction," *The CPA Journal*, Jan. 2014, pp.6-10.
- Quinn, Lawrence Richter [2010], "IFRS: dead in the USA? (including the comments by Patrick Finnegan) ," *CA magazine*, April 2010, pp.28-35.
- Sato, Takafumi [2014], *Practical issues and challenges for the adoption of the IFRS* (including comments by Ochi) , IASB.
- Scott, Darrel [2014], "Analysis: IFRS 9 Long heralded, much delayed," *Accountancy SA*, <http://www.accountancysa.org.za/analysis-long-heralded-much-delayed/>
- [2015a], "Foreword by Darrel Scott," *Applying IFRS for SMEs*, <http://www.applyingifrsforsmes.co.za/wp-content/uploads/2015/07/ApplyingIFRSforSMEsForeword.pdf>
- [2015b], "Foreword from IASB," *Companion Guide for Not-for-profits to the IFRS for SMEs*, pp.4-5, [http://www.accaglobal.com/content/dam/ACCA\\_Global/Technical/smb/companion-guide-for-not-for-profits.pdf](http://www.accaglobal.com/content/dam/ACCA_Global/Technical/smb/companion-guide-for-not-for-profits.pdf)
- Smith, John [2009], *Financial Reporting in the Changing World*, <http://archive.ifrs.org/Alerts/Conference/Documents/JohnSmithspeech.pdf>
- Toker, Mary B. [1997], *Capital Market Standards for Financial Reporting- Perspectives from the Securities and Exchange Commission*, <http://www.sec.gov/news/speech/speecharchive/1997/spch177.txt>
- [1998], *What is Going to Happen in the US?*, <http://www.sec.gov/news/speech/speecharchive/1998/spch207.htm>
- [2000], *A Regulator's Perspective on the Needs of Capital Markets*, <http://www.sec.gov/news/speech/spch385.htm>
- [2005], *Convergence and the Implementation of a Single Set of Global Standards: The Real-life Challenge*, *Accounting in Europe*, Vol.2 No.1, pp.47-68.
- [2015], *What kind of accounting standards should we write?*, [http://www.cig.ase.ro/revista\\_cig/Fisiere/14\\_3\\_1.pdf](http://www.cig.ase.ro/revista_cig/Fisiere/14_3_1.pdf)
- Wei-guo, Zhang [1997], *The Great Accounting Standards Overhaul*, *Asian Business Review*, Apr. 1997, pp.59-61.
- Westfall, Christopher [2013], "Convergence 2014 The Tip of the Iceberg," *Financial Executive*, December 2013, pp.38-46.